

今後5年間の 基本計画がまとまる

第5次益城町総合計画の 前期基本計画答申書を提出



答申書を提出する渡辺会長(左)

「第5次益城町総合計画 前期基本計画」の答申書が3月3日、町総合計画審議会の渡辺千賀恵会長(東海大学産業工学部教授)から町長へ提出されました。

この計画書は、昨年12月、議会で可決された「第5次益城町総合計画基本構想」に掲げる将来像を実現するため、施策を具体化し、各分野で取り組むべき施策の基本方向と、主要な事業計画を示すもので、昨年9月に町から諮問を受けた同審議会が、アンケート調査や町の現状分析、ワークショップ提言などを踏まえ、さまざまな議論を重ね、まとめられました。

提出された際に渡辺会長は、「今回の基本計画では町の将来にとって必要なもの、大切なものを取り上げている。その中で、今後5年間で町が優先的に取り組むべき事項である『優先プロジェクト』を掲げた。また、まちづくりは行政に頼らず、お金がなくても思い立った人がすぐに行動できるように『協働のまちづくり』を進めないといけない」と述べました。

これに対し住永町長は「基本構想とこの計画をもとに『日本一住みよいまち』の実現に向け、さらなる工夫と努力を重ねていきます」と答えました。

地域のきずなを学校に

益城中央小で公開授業開催

平成20年度から3年間、「学校支援地域本部事業」(文部科学省委託事業)の指定を受けている益城中央小学校(北本修吾校長)で、2月24日、公開授業と研究協議・実践交流が行われました。

この事業は、地域の人材を活かし、学校を支援することにより、子どもや学校、地域のきずなを深め、教育力の向上に役立てようと実施されているものです。

公開授業では、約100

人の参加者が見守るなか、学校支援ボランティアの皆さんが1年生から6年生までの各教室に分かれ、授業を支援。それぞれが得意とする昔遊びや紙粘土による小物作り、そろばんなどを身ぶり手ぶりを交えながら指導していました。

授業の後には、研究協議・実践交流が行われ、同校コーディネーターの森田恭子さん(広崎4町内)が同校での活動状況を詳しく報告しました。



公開授業で子どもたちを指導する
学校支援ボランティアのみなさん

町消防団に防災活動車を配備

町消防団に3月1日、(財)日本消防協会から消防団員福祉共済制度の福祉増進、振興および還元事業の一環として防災活動車1台が配備されました。

災害時の資機材運搬および指令車として幅広い活用が期待されます。



配備された防災活動車